

マタイの福音書 第7章 3節

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」

心の貧しさと幸いが同居する。そのようなことがあるだろうか。人の一番奥底の部分といえる心が貧しいのである。見るもの、聞くもの、受けるもの、すべてが乏しさしかもたらさない。心が貧しければすべてが貧しくなると言っても言い過ぎではない。しかし、ここでは心の貧しさと幸いは同居する。

心の貧しい者に幸いが宿る。心の貧しさを抱え、それを自分の姿と覚え、受け止めている者。それが、心の貧しい者のことである。単純に心が貧しいことではない。そのように自らの真実な姿に出会う者に聞こえてくるみことばがある。天の御国はその人たちのものだから。その人たちとは、心の貧しい人たちである。

幸いは自分たちから生まれるものではなく、自分たちが作り上げるものでもない。幸いは自分たちに与えられるものである。天の御国とあることから、天から与えられる。与えられるものが御国である。どこかの王の名がついた国でもなければ、どこかの地域に特定される国でもない。天の御国である。神により備えられる、神に統治される、神が世界にお与えになる国である。そこには国境もなく、君主の争いもなく、あるのは御父なる神の愛のご支配である。

2022年9月15日